

## Y19b 第3代所長・池田徹郎が描いた緯度観測所絵巻

馬場幸栄（一橋大学）

国立天文台の前身組織のひとつである緯度観測所（岩手県）の風景を描いた絵巻物が、滋賀県の民家で見つかった。天文学者であり気象学者でもあった池田徹郎（1894 - 1981年）が緯度観測所の第3代所長を務めていた時代に水彩絵の具を用いて制作したもので、幅2メートル56センチの大作である。この緯度観測所絵巻には当時同所にあった多数の建造物群が描写されており、現存する事務所（現・木村栄記念館）、本館（現・奥州宇宙遊学館）、眼視天頂儀室のほか、取り壊されて今となっては実物を見ることができない新館、赤道儀室、新眼視天頂儀室、浮遊天頂儀室、小使室、所長官舎なども描かれている。これらは国立天文台水沢 VLBI 観測所が所蔵する緯度観測所の写真とは異なる視点から各建造物の外観をとらえているため、緯度観測所に存在した建造物群の構造・様子をより正確に理解するうえで重要な史料である。さらにこの絵巻は、第2代所長・川崎俊一（1896-1943年）の娘・るい氏が滋賀県で結婚することになった際、結婚祝いとして池田徹郎からるい氏に贈られたものであり、池田と川崎という二人の科学者の家族ぐるみの交流・友情を理解するうえでも貴重な史料であると言える。